

令和4(2022)年度 学校マネジメントシート

学校名 (津商業高等学校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|--|---|
| (1) 目指す学校像 | 「全力津商」の精神のもと、商業の見方や考え方を重視した学校教育を通して「創造力」「協調性」「知恵」を育み、地域社会に貢献できる人材を輩出する学校 | |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | ・自他を尊重するとともに、規範意識と倫理観を大切に作る人間性豊かな生徒 ・自らの可能性に挑戦し、創造力・忍耐力・協調性を身につけ、新たな課題の発見と解決に積極的に取り組む生徒 |
| | ありたい 教職員像 | ・法令を遵守するとともに、授業力等の資質向上に向け、自己研鑽に励む教職員 ・目指す学校像、育みたい生徒像の実現に向け、情報共有と意思疎通を進めつつ互いに協力し、創意工夫を図る教職員集団 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|--|--|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p><生徒>部活動を含め充実した高校生活を送ることを通して、学ぶ喜びを実感するとともに、自らの希望進路を実現することを期待している。</p> <p><保護者>子どもが安全・安心な学校生活を送るとともに、学校生活全体を通じた人間力の育成及び希望進路の実現を期待している。</p> <p><地域>学校の取組により、地域の活性化に資する人材を育成するとともに、地域の教育力を学校が活用し、社会に貢献する意欲や態度をともに育成することを期待している。</p> | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| | <p><家庭> 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加 <中学校> 卒業生の様子、入試情報などの共有 <地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成</p> | <p><家庭> 本校教育活動への理解と連携協力 <中学校> 基礎学力定着の促進と個々の生徒に対して効果的な指導を進めるための情報共有 <地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場(実学)の確保に向けての連携協力</p> |
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | <p>・津商業高校では、挨拶励行や交通マナーの良さが風土としてできあがっている。この風土を今後も継続させていく必要がある。</p> <p>・地元企業と連携した商品開発や県外への販売促進活動、津駅周辺の将来像に関する企画提案の取組など、教室で知識として学ぶだけでなく、フィールドワークや協働学習などを通して、「創造力」・「協調性」をもち、知識を「知恵」に発展させるような学習体験になっている。このような取組が新聞やテレビ番組などのメディアに取り上げられたことで、津商業高校の生徒たちの活動が広く知られるようになった。</p> <p>・教育活動や生徒の様子の発信については、津商業高校通信の発行をはじめとして、Webによる発信も効果的であった。このような取組について、成果と課題を明確にし、今後どのように継続、発展につなげるか方策を探っていくことが必要である。</p> <p>・「学校生活アンケート」の「先生の説明は分かりやすいか」という問いに対して、「わかりやすい」「まあまあわかりやすい」を合わせて84%(昨年度77%)となったことから、ICT環境の整備が進み、教職員が意識してICT機器を活用した授業改善に取り組んだ成果が出ている。教員の献身的な取組で、部活動だけでなく、授業内容についても高い評価を得るようになってきている。</p> <p>その一方で、同アンケートからは忘れ物をする生徒が一定数いることや、自宅学習の時間が短いといった課題もうかがえる。今後、ICTを効果的に活用した授業の工夫や改善(個別最適な学習と小グループ単位等での対話的で深い学び)等により実践を積み重ね、成果を教員全体で共有していくことが必要である。</p> | |

| | | |
|-----------|-------|---|
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、国公立大学も含めた進学志望者が増加しており、就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務である。計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒の進路実現に資する必要がある。 ・新学習指導要領の学年実施を進めていく中、授業内容の改善や3観点での評価方法等について実践を重ね、教科の枠を超えて成果と課題を共有し、充実改善に努めていく必要がある。 ・ICT機器の整備が進み、学習端末を所有した学年が入学し、生徒・保護者の期待が高まる中、効果的に活用した授業を研究し実践していく必要がある。 |
| | 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあっても、商工会議所や地元企業等々との連携を図り、教育活動の充実改善に取り組むことができた。本年度も様々な外部機関と協働し、商業の専門性が発揮できる取組をさらに進め、希望する進路の実現につなげていく必要がある。 ・働き方改革に関する取組については、校内の諸事業のスクラップアンドビルド、実施方法の簡略化、システム化等を図る取組を進めているが、成果が上がっていない。 <p>部活動指導の考え方など教員の意識改革も含めて、今後も継続して取り組み、中長期的な視点に立って整理すべき事項を検討していく必要がある。</p> |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|--|
| 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら学び、自ら考える取組となるような課題の設定や学習活動を学校教育の全ての機会を通して推進する。 ・基礎学力を充実させるとともに、専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、教科横断的な連携、地域や産業界との連携・協働、教育活動の効果検証を考慮したカリキュラム・マネジメントを推進する。 |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を、中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、商業高校の存在価値について広く理解を得る。 ・地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、商業教育を通してビジネスと関連した「探究活動」の機会を増やせるよう取組を進める。 ・目的の明確化および共有を進め、組織的に業務の見直しを進めることで上限時間縮減等につなげ、働きやすい職場環境づくりを推進する。 |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|---------|---|--|----|
| 学習指導の充実 | (1)幅広い学力層の生徒に応じた分かりやすい授業づくりの推進 ICT等を活用して個別最適な学びと協働的で深い学びを推進し、生徒が主体的に探究する授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・ICT教育推進委員会 (6回) ・教職員研修 (3回) 【成果指標】 学校生活満足度調査(生徒) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (80%以上) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (80%以上) | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的で深い学びを推進する教員の割合 ・ICT推進委員会の開催 (3回実施) ・教員対象のICT研修 (3回実施) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (約80%) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (約70%) | ◎ |

| | | | |
|---------------------------|---|--|----------|
| | <p>(2) 地域課題解決型の探究活動の充実 教科横断的な学習、商業の専門性を活用し地域社会と密接に関わる学習等を通して「創造力」「協調性」「知恵」を育成する。 【活動指標】 ・外部講師招聘や地元企業・行政等と連携した学習の発信 (10回以上) 【成果指標】 付けたい力に関するアンケート (生徒) ・創造力、協調性、知恵が高まったと思う生徒の割合 (70%以上)</p> <p>(3) 学習成果の評価手法の確立 新学習指導要領が学年進行する中、本校が付けたい力と観点別評価 (3 観点と 4 観点) の相違等を検証し職員間での共有を図り、実践を積み上げる。 【活動指標】 ・教員研修 (3 回) 【成果指標】 学校生活満足度調査 (生徒) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (80%以上) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (80%以上)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師招聘や地元企業・行政等と連携した学習の回数 (18 回実施) ・付けたい力に関する評価規準を作成と共通認識を深めた。 ・新学習指導要領が学年進行することに対応し、各教科で研修に取り組む (2 回実施) ・授業がわかりやすいと回答する生徒の割合 (約 80%) ・学校が楽しくなったと回答する生徒の割合 (約 70%) | |
| <p>学校全体で取り組むキャリア教育の充実</p> | <p>(1) 進路指導の充実 望ましい進路選択に向け、進路ガイダンス等の充実とインターンシップの充実を図る。また、教科・各分掌・各学年が協力し、全ての教育活動を通してキャリア発達の促進に関わり、その成果と課題を共有する。 【活動指標】 ・キャリア教育全体計画の検証会議 (5 回) ・進路ガイダンスの充実 (1 年 3 回、2 年 4 回、3 年 5 回) ・インターンシップの実施 (2 学期予定) 【成果指標】 振り返り調査 (生徒) ・自らの進路について考える事が出来たと思う生徒の割合 (65%以上)</p> <p>(2) 生徒指導の充実 社会人として必要な規範意識やマナーについて、3 年間を見通した指導を行い、自主・自立を促すことに努める。また、生徒の主体性を引き出す生徒会活動に努める。 【活動指標】 ・頭髪・服装指導 (6 回) ・教職員研修 (2 回) 【成果指標】 自尊感情に関するアンケート (生徒) ・自分の判断や行動を信じていることができると思う生徒の割合 (70%以上)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・付けたい力に関する評価規準の作成と共通認識を深めた。 ・進路ガイダンス (1 年 4 回実施、2 年 6 回実施、3 年 6 回実施) ・2 学年インターンシップ (企業と大学等) 実施 ・自らの進路について考える事が出来たと思う生徒の割合 (71%) ・自主、自立を育む生徒指導に向けて ・頭髪・服装指導 (6 回) ・教職員研修 (3 回) ・自分の判断や行動を信じていることができると思う生徒の割合 (70%) | <p>※</p> |
| <p>安心・安全な学校づくり</p> | <p>(1) 人権感覚あふれる心を育む教育の充実 人権教育推進計画にそって教科指導と校内の取組とを連携させた教育活動を推進し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。 【活動指標】 ・1 年生の人権フィールドワークとその発表会 (2 月) 【成果指標】 学校生活満足度調査 (生徒) ・人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生の人権フィールドワークと報告会実施 ・社会や人間の在り方について考えるようになった生徒の割合 (74%) | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | <p>(2) 命を大切にすることを育む教育の充実 生徒が自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にすることを育成する。また、学校医・SC・SSW等と連絡を密にし、生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談 (3回) ・図書館に命のコーナーを設置 (3回) ・SC・SSWとの協議等 (6回以上) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権フィールドワーク発表会後のアンケート調査等から取組の成果と課題を把握する。 ・自尊心に関するアンケート (生徒) 自分のことが好きであると思う生徒の割合 (70%以上) <p>(3) 危機管理意識の向上に向けた取組の推進 新型コロナウイルス感染症予防対策の継続、熱中症対策、不審者対策、防災対策等、生徒自身が自助と共助の行動が取れるよう努める。また、施設・設備における危険リスクの削減・回避にも努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発信 (11回) ・防災訓練等 (3回) ・学校メール連絡網への加入割合の増加 <p>【成果指標】 学校生活満足度調査 (生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 (70%以上) | <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任による個人面談を通して生徒との信頼関係の基盤を築く (3回) ・図書館において命のコーナーを設置して命の大切さを発信 (2回) ・SCやSSWと関係教員による課題検討会を実施し必要な支援について検討した (7回実施) ・自分のことが好きであると思う生徒の割合 (55%) <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりを活用して新型コロナ、熱中症等への発信 (11回) ・防災についての対策や訓練等に努めた (2回) ・安心して学校生活がおくれると思う生徒の割合 (93%) | |
|--|--|---|--|

改善課題

- ・付きたい力の共通認識を一層深めるとともに、キャリア教育全体計画（進路指導・生徒指導・人権教育等の複数分野における3年間の関連）の見直し、観点別評価の充実に向けての検証を進め、教職員のカリキュラム・マネジメントへの関わる意識を更に高める必要がある。
- ・生徒の自主・自立を一層促すため、生徒が主体的に学校生活や規則・マナーについて考える機会を増やしていく必要がある。
- ・ICTを効果的に活用した授業の工夫や改善等を積み重ね、その成果を教員全体で共有していくことが必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|----------|--|--|----|
| 資質向上の取組み | <p>(1) 計画的な資質向上への取組 ICT活用、学習評価、保健、生徒指導、人権教育等に関する研修会を実施し、資質向上に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会の実施 (各1回以上) ・教員相互の授業研究 (2回以上) <p>【成果指標】 学校生活満足度調査 (生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に満足している生徒の割合 (7割以上) <p>(2) 信頼される教職員集団への取組 ヒヤリハット事例等の共有や教職員一人ひとりが</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上に向けた校内研修(延べ9回) ・教員相互の授業研究(2回) ・授業に満足している生徒の割合 (76%) | |

| | | | |
|---|--|--|--------|
| | <p>教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼向上委員会の開催 (5回) ・コンプライアンス研修 (2回) <p>【成果指標】コンプライアンス意識調査 (教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスに関する意識の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼向上委員会(2回) ・コンプライアンス研修(2回) ・コンプライアンスに関する意識が向上した職員の割合(99%) | |
| 情報提供による信頼の構築 | <p>(1) 授業、学校行事等の公開 開かれた学校づくりの一環として、生徒の様子や商業高校の学習内容について保護者や地域に理解を深めてもらう。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業等の実施 (3回以上) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事参加者アンケートでの満足度 (80%以上) <p>(2) 教育活動の成果等を情報提供 商業に関する特色ある教育活動や部活動の成果等に関する情報をウェブページ、インスタグラム等を活用して積極的に発信する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web等での情報発信 (100回以上) ・新聞記事等への掲載 (15回以上) <p>【成果指標】保護者へのアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子を理解する保護者の割合が増加 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業や体育祭、文化祭など学校行事の公開(3回) ・コロナ禍による参加者への制限があり調査未実施。 ・ ・WEB等での情報発信(120回) ・新聞記事等への掲載(30回) ・コロナ禍による参加者への制限があり調査未実施。 | |
| 組織運営・働きやすい職場環境づくり | <p>(1) 働き方改革の推進 総勤務時間の縮減に向けて、時間外労働時間の削減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合 (8割以上) ・部活動で週1回以上の休養日を実施できた割合 (100%) ・放課後に開催した会議において60分以内に実施できた割合 (9割以上) ・閉校日の設定 (3日以上) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上限時間月45時間超0人、年間360時間超0人 ・時間外労働時間が昨年度を下回った教職員の割合が増加 ・1人当たりの年間休暇取得日数の増加(前年度比) <p>(2) 円滑な組織運営に向けた対応 組織運営上の諸課題の解決に向けて、学校への期待・職場の規模・負荷分散等の視点で検証し、組織や業務内容の改善を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動、会議や出張等の精選 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の労働環境に満足する教職員の割合が増加 (昨年度比) ・職場にやりがいを感じる教職員の割合が増加 (昨年度比) | <ul style="list-style-type: none"> ・設定した定時退校日に退校できた教職員の割合(94%) ・部活動で週1回以上の休養日を実施できた割合(100%) ・放課後に開催した会議において60分以内に実施できた割合(91%) ・閉校日の設定(4日設定) ・上限時間月45時間超22人、年間360時間超21人 ・時間外労働時間が昨年度を下回った教職員の割合が減少(前年度比) ・1人当たりの年間休暇取得日数が減少(前年度比) ・職場の労働環境に満足する教職員の割合は昨年並み(昨年度比) ・職場にやりがいを感じる教職員の割合は昨年並み(昨年度比) | ※ ◎ |
| 改善課題 | | | |
| ・生徒の指導・支援や授業力向上に向け、教職員の意識改革と資質向上を一層推進していく必要がある。 | | | |

(商業教育におけるビジネスの視点を重視した探究活動の推進、生徒の主体性を引き出す適切な生徒支援の推進に向けて取り組む必要がある。)

・学級減に関連した教職員数の減少に対応した働き方改革を一層推進していく必要がある。(学校行事、部活動の精選や統合等の検討していくことが必要である。)

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・学校生活アンケートを通して生徒の実態を把握することは学校教育の充実に向けて必要なことであり、集約後に分析し、成果と課題を明確にしていく必要がある。今後も7つの分野について継続して集約し学校教育の改善に取り組んでいって欲しい。
- ・自己評価シートは、個々の生徒の自己肯定感等を把握する方法として大変有効と考える。個別面談等にうまく活用し、生徒の変容を捉え、人間的成長に繋げていって欲しい。
- ・生徒と向き合う時間や自己研鑽の機会等を増やしていくため、教員一人一人が意識して働き方改革に取り組むことが必要である。
- ・付けたい力の共通理解を生徒と教員間で深めるとともに、課題研究やインターンシップ、人権フィールドワーク等の探究的な学びを経験した生徒の変容を把握し、付けたい力がどの様に影響したのか検証(生徒に自己評価させることも含む)していくことが重要である。また、生徒自身が考えて行動できるよう、自主・自立を一層促していくためには、学校教育活動のあらゆる場面を通じて生徒との適切なコミュニケーションを積み重ねていく必要がある。
- ・今後もキャリア教育に関する様々な取組を継続するとともに発信し、津商業高校の挨拶やマナーの良さを重んじる校風を大切にしていって欲しい。
- ・ICTを効果的に活用した授業工夫や改善等を積み重ね、その成果を教員全体で共有していくことが必要である。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- ・新学習指導要領の学年実施を進めていく中、授業内容の改善や3観点での評価方法等について実践を重ね、教科の枠を超えて成果と課題を共有し、充実改善に努めていく必要がある。
- ・付けたい力の共通認識を一層深めるとともに、キャリア教育全体計画の見直し、観点別評価の充実に向けての検証を進め、教職員のカリキュラム・マネジメントへの関わる意識を更に高める必要がある。
- ・ICTを効果的に活用した授業の工夫や改善(個別最適な学習と小グループ等での対話的で深い学び)等を積み重ね、その成果を教員全体で共有していくことが必要である。

学校運営についての改善策

- ・働き方改革に関する取組については、日々の業務、校内行事や部活動の見直し、部活動指導の在り方など教員の意識改革に向けて、ワーキンググループ等を立ち上げて計画的に検討していく必要がある。
- ・教職員の授業力向上を一層推進していく必要がある。(特に、商業教育におけるビジネスの視点を重視した探究活動を推進し商業科から他教科へ発信していく必要がある。)
- ・生徒の自主・自立を一層促すため、学校教育活動のあらゆる場面を通じて生徒との適切なコミュニケーションを積み重ねていく必要がある。(具体的には、コーチング、カウンセリング、ティーチングのスキルを習得するための研修等を計画的に実施する。)